

議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和6年10月18日(金)
会議時間 13時39分開会 14時38分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：橋本晃明
委員：只野敏彦、川上 均、中河つる子、深沼達生
議長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 議会活性化について
(2) その他
- 6 会議内容 別紙のとおり

【開会 13:39】

(1) 議会活性化について

委員長（橋本晃明）：只今より議会運営委員会を開催する。まず議会活性化についての中で、スケジュールでもタブレットの導入について、予算要求する前に検討しようということになっていたのですが、まずその点について進めたいと思う。これまでデモンストレーションを2回行ったところであるが、導入に向けて結論を出していきたいと思う。振り返りを事務局長から願います。

議会事務局長（大尾 智）：タブレット導入についてということで、活性化の議論を順次進めていこうということであった。私の方で整理した中で今までスケジュールのところに議論した会議の日にち等を載せている。IT化推進のところのタブレット化については、次年度の予算要求等あるので9月、10月くらいまでに結論をだそうということで、浦幌町へ行き、2回、サイドブックスとスマートディスカッション、それぞれ一長一短あったと思うがデモンストレーションを行った。次年度に向けては基本的なところをまず決めるということと、入れるのであればサイドブックスなのかスマートディスカッションなのか、どちらでいくのかを議運として方向性を出していただいて、それをもって次年度予算に向けた準備を事務局としてはとらせていただきたい。議員全体の中にもその方向性を話していかなければならないと思うので、まずはその部分を決めていただければと思う。

委員長：皆さんにお諮りしていく中で、様々な条件によって導入すべき、もう少し検討すべきと色々考え方があろうと思うけれども、もしその中で疑問に思っていることがあればまず出していただきたいが、現時点でタブレット導入ということで進めてよいかということと、気になっている部分があればというのを伺いたいと思う。

只野委員：導入すべきだと私は思う。ただ、時期を今回の予算に合わせてというのはどうかというのは感じる。全員が導入するわけだから、議運だけではなく他の議員にもそういう話を聞いて、どこかの町で使った方がいいけれども、途中で何人かがいないと言って、その人たちは紙だという話も聞いたので、それはもったいないというのと、コスト的に両方になるのでかかってしまうと聞いたので、全員の話を聞いてからという気はしている。それと、町の方で入れると言う時に合わせてやろうという話もあったと思うが、そこに合わせるのなら遅いのかというところをもう一度議論したいと思う。

委員長：全員協という話もあったが、まずは議運で方向性をある程度固めた上で諮って、方向性を最終的に決定するということになるので、何もしないで全員協に臨むわけにはいかないのでは、ここで進めてまいりたいと思う。それから、町がDXを整えるのに合わせてというような意見もあったけれども、そこに決めたということではなかったと思っているので、議会として必要かどうかという議論をしていきたいと思う。

只野委員：議会と町が合わせたほうが経費的にもいいのなら、それが何年も経たない、多分2年後とか、そんな話だったのではないかとと思うので、それに合わせてもいいのではと私は思う。

深沼委員：他町村でもタブレットの部分では結構検討しているところもあると聞いている。なかなか私なんかは慣れない部分があるが、話を聞くと、やってみて慣れることが大切だという話があったので、今まで浦幌に行ったりしたのを聞いても、タブレットの中に全ての機能というか、予算なり議案が入っているということで、とても見やすいという部分に関してはいいのではと思った部分があるので、これに関しては導入の方向で、いずれこういう時代が来るので、導入ということを考えたほうがいいと思う。

川上委員：まず一つとしては導入の時期なのだろうが、遅かれ早かれ導入しなければならないというのは、時代の流れではないがIT化の中では、議会もそういう点では避けられない状況なのかというのは感じている。そういった中で役場のシステムが整うのを待つか、先行してやるかということなのだろうが、今回要望したからといってすぐ予算がつくわけではないということも確かだと思う。そういう部分では、今回導入するという方向で進めていいのではないかと私は思っている。もう一つは、導入によって議員活動の要するに資料を調べたり色々なことをするのにかなり効率的な運用ができるというのを、今回浦幌やデモンストレーション見ながらも感じた。そういう部分で利便性は非常にあるということと、事務局の負担軽減にもつながるといふ部分でも導入を早めたほうがいいと思う。3点目であるが、システムに、機械に慣れる慣れないという問題はあるけれども、これは時代の流れなので、乱暴な話になるかもしれないけれども、一つの議員としての仕事と考えれば、使えないとできないというような形になっていると思う。そういう部分では勉強してもらって、使いこなしてもらおうというのが前提になると思うので、早期に導入したほうがいいと。今回導入するという形で進めていいのではないかと私は思っている。

議会事務局長：今日、中河委員が欠席であるが、電話を頂いたときに中河委員の考えはどうかということを知ったら、入れたほうがいいということと、後の話しになるけれども、ソフトとしてはサイドボックス、浦幌と同じ形式がいいという話をされていた。

委員長：私としてもただ紙代を節約するというのではなくて、業務の効率化と書類の整理、連絡、色々な面でこれが正常に機能すれば、メリットは多いだろうというようには思う。使えないとか、あまり使いたくないという人がいた場合に、経費がという話も当然出てくると思うけれども、道外視察で行った町でも、高齢者に向けてタブレットの使い方を学んでもらうとか、様々な機会を設けているような時代でもあるし、経費面で効果に見合った、金額に見合った効果というものが出せるかどうかということがポイントだと思うけれども、議会の時間を大事にしながら進めていくという意味では、すぐ書類が出せるとか、かばんに詰めていなくてもタブレットを開けば議論が始められるとか、事務局がカレンダーに連絡すれば、それでタブレットを見ていれば会議を忘れることはないとか、様々なポイントがあろうかと思う。そして議会と町のDXを同時に始めたら割安になるかという只野委員からの指摘もあったけれども、議会に合ったソフトと行政が使うのに適したソフトというのは必ずしも一致するとは限らないということを考えれば、議会の議論に適したソフトを選べば、年度違っても結局それぞれということになると思うので、議会として必要かどうかということを1番考えていったらいいのではないかと私は思う。川上委員が話したように要望したからといってすぐにつくかどうか分からないけれども、必要なものという判断をした上では、見積りもまだ全部出そろっているわけではないけれども、そういったものも含めながら予算要望に向けて進めていった上で、その中でさらに利用の方法も含めて、きちんとしたものをまとめて主張していければいいと思う。方向としてはよろし

いか。予算審査の中で、疑問点が出されたときにしっかり答えられるようなメリットというものを、それぞれの委員がこれからしっかりと使えるように勉強していくとか、準備していくということも大事だと思う。方向性としては予算要求していくということによろしいか。

(「はい」との声あり)

委員長：ここで決めていいかどうか分からないけれども、導入ソフトについてもある程度方向性出して見積りなり予算額を決定してまいりたいと思うが、暫時休憩する。

【休憩 13:55】

【再開 13:58】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。まだ細かいところを詰めていかなければならないと思うけれども、ソフトについてはサイドブックスを主に検討を深めていくと、皆さんから異論あれば、もちろん業者の選定みたいになるので、暫時休憩する。

【休憩 13:59】

【再開 14:03】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。性能面でサイドブックスのほうに向いているのではないかという方向性であるが、さらに金額面も加味しながら最終的に絞り込んでいって、全員協議会で皆さんに議論頂いた中で決定していくという方向だと思うがよろしいか。同時に、浦幌に行ったときに、タブレット導入するに当たっての使用基準というものをつくっている。その中で、効率的にこれを利用していくために、こんなことをする、あんなこともするというのと同時に禁止事項についても定められている。会議中の通話は駄目だとか、審議中の情報を外部へ発信することとか、個人的にタブレットを使って私的利用は駄目とか、撮影録音、改造してはならない、個人情報開示することとか、そういったものについての使用基準というものを定めてからでないと、便利なものが使えるようになったということで色々な不正があったり情報漏れがあってはならないと思うので、これらについても視察の際に浦幌町のものはあるけれども、他の町村についてどのような規則や基準で運用されているかということも調べながら、清水で導入するとすれば、どういった形の規則にするかということも、決めながら進めていかなければならないと思うので、皆さんのほうでも情報提供、それから事務局にはご足労かけるが各町村の規則についても調べて頂きたいと思う。タブレットの導入について他に皆さんから何かあるか。なければ今の方向性で進めてまいりたいと思う。次に議会活性化について中間報告を全員協議会の中でしていきたいと思っているが、手元にスケジュールがあると思うが、当初皆さんにお配りしたものと若干変更になっている部分もあるので事務局から説明いただく。

議会事務局長：議論検討の進め方ということで、4月だったと思うが全員協議会にも示した。今の議論、活性化に向けた方向性、スケジュールについて、こんな感じということでお示しした。任期中に順次やっていくということで、4枚目にあるスケジュールカレンダーを作った。中間報告を4回ほどやろうということで、最初の中間報告が6年10月ということにしていた。なかなか色々なスケジュール等もあって、議運もあまり開けていなかったけれども、2枚目を見ていただくと議会報告会と意見交換会については、今年は7月に開催したということだったので早めに議論をしていった。後で確認していただきたいと思うが、報告会意見交換会は去年から方式を変えてやっているの、すぐにどうということもないので、このまま今の方式である程度続けていくということで中間報告できるというように

思っている。模擬議会の部分も来週本番であるけれども、8月に開催した議運の中で議論をしていただいた。その中で在り方の部分については、深く議論していないかもしれないけれども、こちらについてもこれまでどおり継続してやっていくということで中間報告していいのではと思っている。情報共有の動画公開、委員会の公開等の部分は、一応4月から6月で議論しようということだったけれども、ここの部分はあまり議論されていないので、今後議論していくことになると思う。IT推進の部分のタブレット化の話は今議論していただいた。その他、各委員会のSNS配信とかテレワークの部分は後の機会にということもあると思うけれども、中間報告としてIT化の推進はタブレット化を導入して、タブレットを導入してやっていくということで中間報告できると思っている。今日、議論を整理していただいて中間報告を作って来月の全員協議会等で報告できればいいと考えている。

委員長：左側の四角で囲った文字のところと言えば、住民参加の中の議会報告会と意見交換会は、今の方向性で来年以降も、去年から改めているけれども、この方式で進めていくということでもよろしいかということを確認したいと思う。

(「はい」との声あり)

委員長：模擬議会についてもどのようなものが望ましいかということは議論を続けていかなければならないと思うけれども、取りあえず現状の形の中で進めていくということで、模擬議会についてもある程度方向性についてはこれまでどおり実施していくということにしたいと思うがよろしいか。

川上委員：議会報告会も関係あると思うけれども、対象者の検討とか、以前の話では団別にやるという話も出ていたし、町民だけに限らずそういう方向でやるのかどうかという部分はまだ検討していないと思う。模擬議会も今3年生がやっているけれども2年生にするのか1年生にするのかという話もまだ煮詰まっていないと思うので、そういうところを含めて煮詰めていかないと、具体的に進める中で曖昧な進め方になると思う。

委員長：これらについては、これから模擬議会が実施されるということであるので、その反省も含めてまた次回どうするかということは当然議論になってくると思うけれども、議会の活性化の中で模擬議会を継続していこうということはいいか。

議会事務局長：今、川上委員の話した対象者をどうするかというのは引き続き議論していくということでやるか。模擬議会2年生までとか、その辺の議論は引き続き検討していくということで、在り方の方向性だけ報告するような形でいいか。

委員長：次に情報共有という部分であるけれども、委員会の公開とか、広報戦略等というものがあるけれども、これは今後方向性を検討していくというか、議論していくということになると思う。モニター会議もそうであるが、広報の部分もモニター会議の中で随分出てきたりとか、議論をどこでするかということも議論が出ているので、委員会の公開等については、議事録を公開しているというところにとどまっているけれども、これも他の議会ではやっていないところもあるみたいだし、一定の公開にはなっているけれども。

議会事務局長：前にお話では当然この委員会も中継してという考え方もあるという話になって、本当は最初のスケジュールでは早めに議論して、それも予算がかかるものなのでということだったけれども、まだその議論は進んでいなかったの、ここはタブレットと同じように予算がつけば来年からできるというところに持つ

てくには時間が足りないと思うので、後ほどまた委員会も公開していくのかというところを議論していただいて、そうなると早くても来年ではなくて再来年の予算からというような形になると思う。

川上委員：色々事務局の準備の面も大変なのかもしれないけれども、ユーチューブ配信でいけば、スマホでもユーチューブ配信できるような状況にもなっているので、それほど予算的な部分はあまり必要ないと思う。あとはやり方の問題であって、概ね公開するのকাশないのかという部分の原則をはっきりしてもらって、あとは方法としてどのような方法があるかを検討してもらって、私はユーチューブ配信で十分だと思う。今スマホでできるから、そう考えたらそんなに予算的な部分は必要ない。

委員長：委員会の公開というのは、動画を公開することだけではなくて、色々な形での公開があるのだろうという部分と、町民の方との意見交換会の中でも、委員会まで全部公開するのが果たしてどうか、公開して見たいという方も当然いる。それから、全部オープンの中で本当に深めた議論ができるのかという方もいて、それは、開かれた議会というものには少しブレキになっているイメージもあるけれども、そこはクリアしていくためにはまだ少し議論が必要だと思っているので、身になる議論をするための仕組みを考えながらでないと、公開というのも、何でも公開でいけばいいというように皆さんが必ずしも一致していないという印象を持っているから、ここは議論しながら、公開の方向性はあるけれども進めていかないと駄目ではと思っている。

川上委員：私は原則公開するべきだと思う。議会で決めるのは決して定例議会だけではなくて、委員会の中でもどういう議論がされているかというのが、議事録見れば分かるけれども、話をしている協議、議論している中身というのを記録して残しておく、見てもらうというのは議員として原則だと思う。基本的な部分では公開ということを実原則として持って、それについて進める方向で私はやるべきだと思う。

委員長：これについては引き続き議論していきたいと思う。それから、機能強化については取りあえずIT化の推進というところは今皆さんと共に進めているところである。その他、女性議員の拡大、議会機能活性化というのがあるけれども、これも令和7年の5月以降の検討になると思う。あと基本項目については先程のグラフというか表の中で言えば、どちらかという議論を進めていく中で答えを導き出していくような形になると思う。ここまでのスケジュール感について、中間報告については皆さんよろしいか。

川上委員：スケジュール的には4年間でやるという形でスケジュール組んだけれども、実際は来年になったらメンバーが変わる形になると思う。そういった中でどのように今までの議論した中身と今後の部分を引き継いでいくという部分をどうやっていくのかということも考えていかなければならないと思う。例えば議会機能活性化は来年の議論の中身になっているけれども、一般質問と答弁書の在り方で、今は答弁書を当日もらっているけれども、当日ではなくて3日ぐらい前にももらえれば再質問の準備もできるということもあるし、そういう部分も含めてもう少し早めに議論してもいいのではという部分は感じる。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 13:59】

【再開 14:03】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。それについては少し議員間で話をしながら進めてまいりたいと思う。先程予算要求の話が出たこともあるので、議会としての機能を強化していくことにもつながると思うが、議員の研修会に講師を招いて勉強するという部分の予算がないので、講習会に参加するという予算は取れているけれども講師を招いて勉強するという予算を取れていないので、これについてもどういう方を呼ぶかによるけれども、ある程度予算を要求していきたいとは思っているけれども皆さんどうか。

川上委員：研修をどうやるかという、講師を呼ぶというのも一つの方法だけれども、何を研修するのかということはある程度絞ってやらないと、それに伴って講師を東京から呼ぶのか札幌から呼ぶのか、それとも地元の他の議会から呼んで話を聞くのかということもあるだろうし、何を研修するのかということはある程度は決めておかないと、予算取ると言ってもただ研修やりたいから講師予算例えば100万欲しいという話にもならないのではないかと。いざとなつて何を研修するかという話になったとき、まとまるのかという部分もあると思う。例えば来年なら来年1年間それぞれの常任委員会の中で勉強したいというテーマを出してもらって、その中で外部講師を呼ぶという話になれば、具体的な見積りも含めた予算要求もできると思う。

委員長：まさに議会活性化についての講習をやろうという狙いがあるので、例えば清水町が何番目だとか、芽室町が何位というような、それによって議会の活性化のために検討する項目みたいなものを挙げられてきていることになっているので、あまり具体的にと言うと足を縛ってしまうことになるかもしれないけれども、例えば議会活性化、改革のランキングといったところで審査に関わっているような方、講師を呼ぶということにすれば、単なる項目だけではなくて、どの町がそれをうまく関連づけて議会運営しているかという話も聞くことができると思うので、そういう方を呼べるようなことになれば、ある程度予算付けて呼ばないとできないことだし、皆さんがどういう方を呼びたいかというのは、頭の中で別々な考え方があってもいいけれども、取りあえず私が今イメージしているのはそのような感じである。

川上委員：色々な方法があると思う。講師を直接呼ぶという方法もあるし、今ならリモートを使ってネット上でやりとりも可能なので、色々なことをなるべく経費かけないような形のものをやるということで進めたほうがいいと私は思う。

委員長：それはまた協議というか考えていきたいと思うけれども、そういったことも予算がゼロでは結局何もできないので、不用額が出るようなことになるのもまたあれだが、議員それぞれに勉強したいという意欲がない方はいないと思うので、しっかりした方に講師をお願いすれば、当然皆さん参加頂けるものだと私は思っている。それについて予算の中である程度設定する、金額は別にして必要だと思う。それから、3番目の今後の議論についてであるが、先程川上委員からは引き継いでいく中身についての検討というのが必要だろうということだが、年度末には当然しなければならぬことだと思うので、次の機会にまとめていきたいと思う。事務局として何か検討漏れの部分があるか。

議会事務局長：今までの議論のまとめというか、議会報告会と意見交換会、模擬議会、今回のタブレット化についてはある程度方向性が出た。ただ一部まだ検討が残っている部分もあるので、その部分は除いてやり方の部分についてはこういう中間報告するというのを私のほうで一度作ってみて、次回の会議に出すということではよろしいか。

(2) その他

委員長：その前に各委員から特になければ、事務局長が文章化してもらうことでまとめていきたいと思う。その他今日議題とすることはあるか。では、次回の日程を決めていきたい。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 14：32】

【再開 14：37】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。次回は11月15日、10時から、時間について変更あれば連絡する。それでは以上で本日の議会運営委員会を終了する。

【閉会 14：38】